

ニュージーランドのフォンテラの環境保護戦略は？

ニュージーランド(NZ)は国土の面積が日本の約 70%で、人口はわずか 4%の小さな国だ。だが生乳の年間生産量は約 2100 万キロリットルと世界第 8 位(*1)に位置し、同国が乳製品を輸出する国は 130 カ国・地域に上る。そんな酪農大国 NZ で生産される生乳の約 8 割を集荷するのが乳業メーカーでもある酪農協同組合フォンテラだ。世界的に環境に対する意識が高まる中、フォンテラも経営戦略の一つとして持続可能性(サステナビリティ)の向上を掲げ、南半球初のカーボン・ゼロ牛乳を販売するなど、数多くの環境保護プロジェクトを展開している。フォンテラの環境保護戦略について、フォンテラ・ブランド・サステナビリティ責任者(Head of Sustainability, Fonterra Brands)を務めるロージー・コッター(Rosie Cotter)氏に NZ のオフィスで話を聞いた。

——フォンテラの持続可能性に関する戦略について、現状と今後の方向性は？

フォンテラは、2030 年に工場や物流における温室効果ガス排出量を 2018 年の水準から 30%削減し、2050 年にネットゼロ(大気中に排出される温室効果ガスと大気中から除去される温室効果ガスが同量でバランスが取れている状況)を実現することを目標にしています。これにはスコープ 1(自社で使用する燃料などによる直接排出)とスコープ 2(他社から供給を受ける電気や熱などに付随する間接排出)が対象になります。

また、今後 10 年間で 10 億 NZ ドル(約 831 億円)を投じ、脱炭素化、水使用量の削減、水質向上のために、製造拠点をアップグレードする計画を立てています。数多くのプロジェクトが同時進行しており、それぞれの目標やそれらがもたらす効果は異なっていますが、共通する目的は、私たちのビジネスによる環境負荷を弱め、持続可能性を高めるといことです。

具体的に説明しましょう。よく知られているように、農場で排出されるメタンは酪農乳業サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の大きな部分を占めています。私たちはまだその解決に至ってはいませんが、削減に向けた多くの研究開発プロジェクトを進めています。一つの例が「カウブチャ(Kowbucha)」です。牛が生成す

るメタンの量を低下させる抑制剤で、牛のゲップによるメタンの発生を、自然な方法で削減することを目指し研究に取り組んでいます。

また、乳製品の加工における現実的な焦点は、石炭の使用停止に当てられています。フォンテラはまだ、いくつかの工場で石炭を使用しています。これらの工場を対象に、燃料を石炭から再生可能エネルギーである木質バイオマスに切り替えることを目指し、脱炭素化の大規模プロジェクトに着手しています。このプロジェクトは昨年から進行中で、テ・アワムツ(Te Awamutu)工場では、石炭由来の排出量を 11%減少させることができました。

さらに水処理に関しては、排水処理の品質や効率性の向上と水の利用にストレスがかかっている地域での水利用の効率化が焦点です。水の必要量を減らすだけでなく、私たちは「リビング・ウォーター(Living Waters)」と呼ぶ、あらゆる種類の集水域の植栽と復元の事業を進めています。一部の湖や河川、河口などは、排水による高レベルの栄養素や堆積物、汚染物質の影響を受けており、水を中心とする生態系(エコシステム)が劣化する結果につながりますが、そうした箇所が「リビング・ウォーター」の出番です。

このほかにも物流での温室効果ガス排出削減や、消費者が求めている製品やソリューション

ンを提供することもプロジェクトの対象です。そうした分野の革新を続けることも課題としています。

実際には、NZ では、乳牛は自然環境の中で放牧されて牧草で飼育されるグラスフェッドが主流です。そのため他の酪農国よりも比較的カーボンフットプリントは低いと考えています。つまり私たちの農場は本質的に、持続可能性が高い状態です。とはいえ私たちの持続可能性に対する信頼性を高い水準で維持するためにも、こうした焦点や課題に向き合うことが必要で、解決すべきことは多くあると考えています。

——協同組合のフォンテラは、独立した事業主である組合員酪農家の持続可能性を、どのように高めるのですか

私たちは、酪農家と「農場環境プラン (Farm Environmental Plan)」を作成します。フォンテラには、酪農アドバイザー (Sustainable Dairy Advisors) 約 40 人で構成されるチームがあります。彼らが酪農家と協力し、個別に広範囲の持続可能性向上プランを作成するのです。

例えば、NZ の酪農業にとって牧草の管理は非常に重要ですが、放牧地の施肥量の上限などもこの環境計画で合意の上で決定しています。

このプロセスは酪農家と私たちの双方の協力によって成立するもので、農場での温室効果ガス排出削減や動物福祉の向上を目的としています。先ほどお話したメタン削減の研究開発なども、最終的には酪農家に成果を還元し、彼らにとって必要とされる農場での温室効果ガス排出削減につながられるのです。

また、フォンテラは酪農家に対し、「農場インサイトレポート (Farm insight Report)」で、さまざまな経営データや情報を提供し、彼らを支援します。

——環境保護への意識の低い酪農家がいた場合、彼らのモチベーションをどう引き上げるのですか

もはやそうした酪農家はいないと思いますよ (笑)。ただ、フォンテラと組合員酪農家の間には、品質に対する基準と方針、供給に対する契約条件 (Terms and Conditions) があります。つまり品質に対しフォンテラが期待する基準を設けており、品質を監督するメカニズムがあるということです。環境保護対策に関する酪農家への財政的支援については、お話しできません。

——温室効果ガス排出削減目標は物流も対象にしています。物流面での環境保護対策は？

フォンテラは、自社の物流網と提携会社が運営する物流網を利用しています。自社の物流では、現在、「ミルクイー (Milk-E)」と呼ばれる電動車のミルクタンカー (生乳集荷車) を試験運用しています。

温室効果ガス排出削減には物流も一つの鍵になりますが、従来は重い貨物車の脱炭素化は難しいと見られていました。この実験が成功すれば、NZ のさまざまな会社に導入されるかもしれません。

また提携会社に対しても、酪農家と同様に、フォンテラが期待する基準を設けています。

——「農場インサイトレポート (Farm insight Report)」について詳細を教えてください

このレポートは NZ の酪農家を対象に 2021 年に発行されました。フォンテラの出資者でもある組合員酪農家は、毎年このレポートを受け取り、環境と動物の健康状態の観点から自らの農場の成績 (パフォーマンス) を総合的に把握することができます。内容は、生乳の品質に関わる体細胞数 (Somatic Cell Count) や搾乳の効率性、牛の暑熱ストレス、跛行、乳房炎など広くカバー

しています。また、「協同組合としての農家の差別化プログラム(The Co-operative Difference Programme)」というプログラムの下、温室効果ガスの報告や窒素リスク・スコアカードも含まれ、その酪農家が所在する地域や、NZ 国内の酪農家の平均と比較したパフォーマンスが示されます。

このレポートは酪農家・農場の改善の機会が強調されています。先ほど話したように、私たちの酪農アドバイザーは、このレポートが提供するデータを活用し、酪農家と協力して改善を進めてゆきます。

酪農家は時間と労力をかけてデータを収集・記録することになりますが、顧客が求めている品質の生乳を生産しているという大きな証拠になります。

フォンテラは、NZ の酪農家が農場の改善に優先順位を付けられるよう、レポートの質を向上させてゆきたいと考えています。

——NZ 初のカーボン・ゼロ牛乳について教えてください

フォンテラは、温室効果ガスの排出量と吸収量が均衡し実質的な排出のない「カーボン・ゼロ・ミルク」として、「シンプル・ミルク(Simply milk)」という商品を販売しています。この商品は2020年にNZではもちろん、南半球でも初めて発売されたカーボン・ゼロの牛乳で、こうした商品はまだ世界でも少ないと思います。

「シンプル・ミルク」は、フォンテラとスーパーマーケット大手のフードスタッフが協力して開発した商品です。両社は共に、持続可能性を高めることを宣言している企業で、その約束(コミットメント)には、消費者により多くの選択肢を提供する、ということが含まれています。「シンプル・ミルク」は、気候変動に対する活動に参加するという機会や選択肢を消費者に対して提供する商品として生まれました。

製造方法に関しては従来の牛乳と違いはありません。異なるのは、この商品は農場での生乳生産から加工工場を経て、物流に乗り消費者の自宅に至るサプライチェーン(供給網)の全過程で、カーボンフットプリント(温室効果ガス排出量)が集計されている点です。「シンプル・ミルク」のサプライチェーンで排出される温室効果ガスの割合は、酪農場からが全体の75%、加工工場の排出量が14%、物流や小売からは11%であることが判明しています。

そして私たちは、その集計された排出量に対応するカーボン・クレジットを購入し、オフセット(相殺)しているのです。「シンプル・ミルク」のカーボンフットプリントは、2リットル入りボトル1本当たり2.1キログラムの二酸化炭素相当で、その排出量の測定はAgResearch(注・農業省から独立した機関で、牧畜全般に関わる調査研究を担う*2)との協力で行われ、認証はToitu Envirocare(注・政府所有の研究機関の下部組織で炭素削減認証を担う*3)による監査を受けています。

フォンテラは持続可能性を高めるコミットメントとして、先ほど示したような温室効果ガスを削減する目標を掲げています。その達成のために、私たちはサプライチェーンを通じた排出量の計測の対象とするプロセス(Process)と手法(Procedure)を構築した形です。

——カーボン・クレジットを購入することは、コスト増につながることはありませんか

残念ながら、商業サイドのことはお話しできません。ただフォンテラは、さまざまな活動の中心に、持続可能性を置いています。そして現実的にカーボン・クレジットの購入によるオフセットに関連して3つのプロジェクトを実施しているということをお話しできます。

1 つ目は NZ 南島のカイコウラ(Kaikoura)で実施されている「森林再生(Regeneration)プロジェクト」です。カイコウラの面積 7.5 平方キロメートルの原生林で樹木の再生事業を行っています。2 つ目はバングラデシュにおけるエネルギー効率の良いコンロの推進活動、3 つ目はインドの水力発電プロジェクトです。これらのプロジェクトはみな、カーボン・クレジットを通じてカーボンフットプリントを相殺しています。

基本的にフォンテラは消費者の代理としてカーボン・クレジットを購入する、という考え方です。そして消費者は私たちの商品(例えば「シンプル・ミルク」)を購入することで、私たちが支援しているプロジェクトに貢献していることとなります。つまり、「シンプル・ミルク」の一つ一つのボトル入り商品が温室効果ガスをオフセットしていると言え、実際には購入した消費者が、ゼロカーボンや環境保護プロジェクトを実行しているのです。

——カーボン・オフセットのコストは、適切に小売価格に反映できていますか

酪農ビジネスに携わる皆さんが、この部分に関心があるのは分かります。しかし、やはり商業的なことはお話しできません(苦笑)。小売価格の決定にはさまざまな要素が関係するので、一概にカーボン・オフセットだけで小売価格が上昇するとは言えません。(筆者注・NZ の牛乳の小売価格はスーパーマーケットの自社ブランド牛乳が 2 リットル入りで 3.38 NZドル(約 281 円)、シンプル・ミルクは 4 NZドル(約 332 円))

——では、消費者のカーボン・ゼロ牛乳に対する需要をどのように考えていますか

消費者は現在、企業やブランドに対し、環境の持続可能性を高めることを期待していると思います。持続可能な商品やサービスを購入する

ことに対して関心が高くなっており、牛乳の購入も気候変動や温室効果ガスの問題に対する行動として、特定の商品やブランドを選択するようになっています。

「シンプル・ミルク」は 2020 年の発売時に、2 リットル入りの普通牛乳と低脂肪牛乳の 2 種類を市場に投入しました。販売数は 2022 年に 220 万本に到達し、フォンテラはその年に 3 リットル入りの販売も始めました。現時点での販売数は、合計 350 万本に達しています。

全体として、NZ の消費者の間で持続可能性の高い商品に対する需要が急増していることは疑いありません。「カーボン・ゼロ」商品に対する将来の需要について断言できませんが、顧客は持続可能性を向上させる選択肢が多く提供されることを望んでいると考えています。

さらに言うと、消費者は小売店で商品を選択するに当たって、商品が責任を持って生産されたのかを知りたがっています。つまりその牛乳がどのように生産されているかを知りたいと思い、それが環境にポジティブな影響を与えるのかを確認したがついていると考えています。

——では最後に、フォンテラは数多くの商品ブランドを持っていますが、環境保護を意識した商品を増やす計画はありますか

フォンテラは全体として、科学的な側面や技術開発的な側面を通じて持続可能性を高める長期的な戦略を持っています。それは農場での環境保護プログラムや水質管理などから、顧客への価値の提供方法まで、非常に広い範囲を対象としています。そしてカーボン・ゼロ牛乳である「シンプル・ミルク」は、現時点での一つの提案です。私たちは排出削減を含め、ビジネスの持続可能性も向上させたいと考えており、その中で消費者の選択肢を増やすことも強く考慮しています。



Rosie Cotter 氏 (同社提供)

サステナビリティ責任者 (Head of Sustainability)
として 600 ブランドに及ぶフォンテラ商品の持続可能性を管理する

参考資料:

- 1) <https://www.dcanz.com/about-the-nz-dairy-industry/>
- 2) <https://www.agresearch.co.nz/>
- 3) <https://www.toitu.co.nz/home>

(取材日:2023年2月20日)

(執筆:オーストラリア在住 湖城修一)